

平成 27 年 5 月 15 日
国土交通省中部地方整備局
港湾空港部
清水港湾事務所



平成27年
徳川家康公
薨御
四百年
記念事業

シンポジウム開催のご案内

平成 27 年度 港湾政策研究所講演会 in 清水

『家康公ゆかりのみなと 清水港の歩みと未来』

〔 中部地方整備局 浚渫兼油回収船「清龍丸」一般公開、
清水海上保安部 海上保安業務資機材の展示を同時実施！ 〕

5月28日(木)、(公社)日本港湾協会主催の「平成27年度 港湾政策研究所講演会 in 清水(以下、シンポジウム)」が開催されます。

中部地方整備局では同日、清水港日の出ふ頭において、名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」(以下、「清龍丸」)の一般公開を実施します。あわせて、清水海上保安部の海上保安業務資機材の展示も実施されます。

多くの皆様のお越しをお待ちしています。

■ シンポジウムに関して

徳川家康公の駿府大御所時代より、清水港は駿府の外港として発展してきました。

徳川家康公薨去 400 年を迎える本年、清水港を題材としたシンポジウムが、下記のとおり開催されます。

基調講演では、徳川宗家第十八代当主・静岡商工会議所最高顧問の徳川恒孝氏により、「清水港と家康公」と題して、清水港の歴史や徳川家康公との関わりなどについて、講演が行われます。

パネルディスカッションでは、有識者により、今後の清水港の利活用方策や発展可能性について、討論が行われます。

記

1. 日時：平成 27 年 5 月 28 日 (木) 9:45~11:25
2. 場所：静岡市清水文化会館 マリナート(小ホール)
(静岡県静岡市清水区島崎町 214 番)
3. 主催：(公社)日本港湾協会
4. 後援：国土交通省中部地方整備局、静岡市
5. プログラム：別紙のとおり
6. 参加費：無料(募集人員 290 名、事前申し込み制)

※ 別紙のとおり、下記ホームページまたは、FAX にてお申し込み下さい。

<http://www.phaj.or.jp/event/subscription7.html>

■「清龍丸」一般公開、清水海上保安部の海上保安業務資機材の展示に関して

清水港日の出ふ頭において、「清龍丸」の一般公開(船内見学、職員による説明、パネル展示)を実施します。あわせて、清水海上保安部の海上保安業務資機材の展示(資機材の展示、職員による説明、パネル展示)も実施されます。詳細は下記のとおりです。

記

1. 日時：平成27年5月28日(木)10:00~15:00
2. 場所：清水港 日の出ふ頭4号岸壁付近(会場アクセスは別紙よりご確認ください。)
3. 参加費：無料(事前申し込み不要)

【浚渫兼油回収船「清龍丸」について】

国土交通省では、全国に3隻の浚渫兼油回収船を保有しています。

その1隻である「清龍丸」は平時、名古屋港において航路や泊地の浚渫作業を行っていますが、大規模流出油事故発生時には、速やかに現場海域に出動し、油回収作業を行えるよう、常に万全の態勢を整えています。

また、地震等の大規模災害発生時には、被災状況の把握、緊急支援物資の運搬などの災害対応を行います。東日本大震災発生時には、岩手県の釜石港・大船渡港に建設重機、緊急支援物資の運搬を行いました。

※「清龍丸」の詳細については、別紙をご覧ください。

■ 配布先

中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、静岡県政記者クラブ、静岡市政記者室、専門紙記者会、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

【問い合わせ先】

① シンポジウムの内容に関して

中部地方整備局 港湾空港部 総務室 安西、延島

TEL : 052-209-6310

FAX : 052-203-9737

② シンポジウムの参加申し込みに関して

(公社)日本港湾協会 諸星、佐久間

TEL : 03-5549-9574

③ 「清龍丸」一般公開 等に関して

中部地方整備局 名古屋港湾事務所 海洋環境・防災課 下田

TEL : 052-651-6791

FAX : 052-651-3801

清水港湾事務所 総務課 舟戸、屋敷

TEL : 054-352-4146

FAX : 054-353-3072

シンポジウム (平成27年度 港湾政策研究所講演会 in清水)



平成27年
徳川家康公
顕彰
四百年
記念事業

家康公ゆかりのみなと 清水港の歩みと未来

参加無料

開催日時：平成27年5月28日(木)
募集人数：定員290名(先着順)

家康公の駿府大御所時代、駿府の外港として清水湊は発展しました。本シンポジウムでは、世界に繋がる「清水港」のこれまでの歩みと未来について議論を深めます。

主催：(公社) 日本港湾協会 後援：国土交通省中部地方整備局、静岡市

シンポジウム概要

開催日時

平成27年5月28日 (木)

開催場所

静岡市清水文化会館マリナート
(小ホール)

募集人員

定員290名 (先着順)

申し込み方法

ホームページまたはFAX

※ 開催場所へのアクセスと申込方法については裏面の詳細をご参照ください

プログラム

9:45~9:50 開会挨拶

9:50~10:20 **基調講演 「清水港と家康公」**

○徳川宗家第十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川 恒孝氏

10:25~11:25

パネルディスカッション 「清水港のこれから」

■パネリスト

○徳川宗家第十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川 恒孝氏

○国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
地球深部探査センター センター長代理 倉本 真一氏

○東海大学海洋学部教授 東 恵子氏

○静岡新聞編集局 政治部長兼論説委員 海野 俊也氏

11:25 閉会

中部地方整備局 浚渫兼油回収船「清龍丸」の一般公開

- 日時 平成27年5月28日 (木) 10:00~15:00
- 場所 清水港 日の出ふ頭
- 内容 船内見学、職員による説明、パネル展示

清水海上保安部 海上保安業務資機材の展示

- 内容 資機材展示、職員による説明、パネル展示
- ※ 日時・場所は上記清龍丸に同じ。

いずれも
事前申込
不要です



清龍丸

■参加者プロフィール



徳川宗家第十八代当主
静岡商工会議所最高顧問

徳川 恒孝(とくがわ つねなり)氏

1940年東京生まれ。1964年学習院大学政経学部卒業後、日本郵船(株)入社。2000年日本郵船(株)代表取締役副社長就任。2002年同社顧問就任。2003年(財)徳川記念財団設立後、理事長就任。現在は、(公財)徳川記念財団理事長、(公財)WWF世界自然保護基金ジャパン会長を務める。著書は、『江戸の遺伝子』(PHP研究所)など。



東海大学海洋学部教授

東 恵子(ひがし けいこ)氏

東京都生まれ。多摩美術大学大学院修了(芸術学修士)後、2011年より東海大学海洋学部環境社会学科教授。1990年より「清水港・みなと色彩計画」の発案・立案に携わり、アドバイザー会議座長として施設・工作物の配色指導・助言等のデザインマネージメントを担当。



国立研究開発法人
海洋研究開発機構(JAMSTEC)
地球深部探査センター
センター長代理

倉本 真一(くらもと しんいち)氏

1962年東京生まれ。東京大学で理学博士を取得後、通商産業省工業技術院(現 産業技術総合研究所)に研究員として採用。専門は海洋地質学。2002年10月の地球深部探査センター(CDEX)発足時に、独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)に移り、現在は、清水港を母港とする地球深部探査船「ちきゅう」の運用リーダーを務める。



静岡新聞編集局
政治部長兼論説委員

海野 俊也(うんの としや)氏

1960年静岡市生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、1983年静岡新聞入社。焼津支局長、経済部長などを経て2014年より政治部長兼論説委員。2013年より静岡新聞コラム「大自在」を担当。2013年10月より静岡県地方港湾審議会委員。

■会場アクセス

シンポジウム会場

場所：静岡市清水文化会館 マリナート(小ホール)
アクセス：JR清水駅みなと口(東口)より徒歩3分
(清水駅自由通路直結)

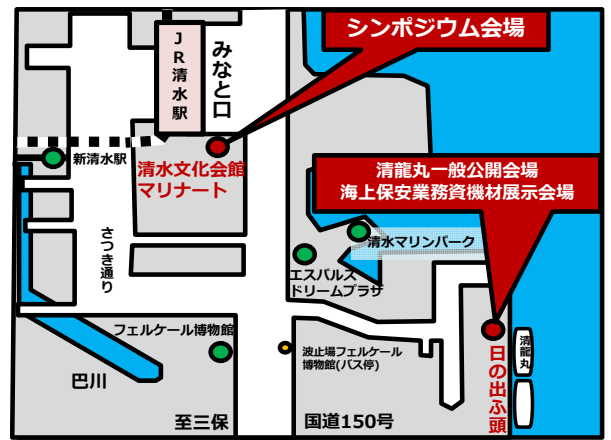
住所：〒424-0823 静岡市清水区島崎町214番

中部地方整備局 浚渫兼油回収船「清龍丸」一般公開、
清水海上保安部 海上保安業務資機材の展示会場

場所：清水港 日の出ふ頭 4号岸壁付近

アクセス：JR清水駅より、バス「三保山手線(東海大学三保水族館行きまたは三保車庫行き)」に乗り、「波止場フェルケール博物館」にて下車、徒歩約10分

アクセスマップ



■参加申し込みについて

- 申し込み方法：日本港湾協会HP内専用ページまたはFAX

専用ページ <http://www.phaj.or.jp/event/subscription7.html>

FAX 03-5549-9576 (下記ご記入の上、ご送付下さい)

- 申し込み受付期間：平成27年5月22日(金)

*HPの申し込み期限を延長しました。ただし、満席になりましたら受付は終了します。

- 問い合わせ先：(公社)日本港湾協会 Tel：03-5549-9574 担当：諸星、佐久間

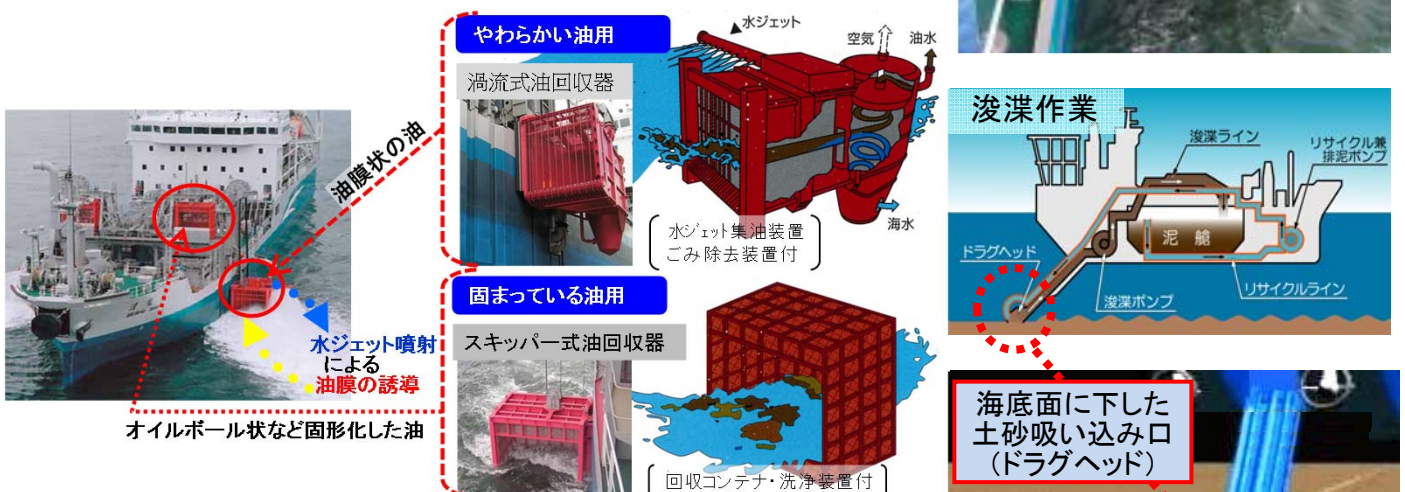
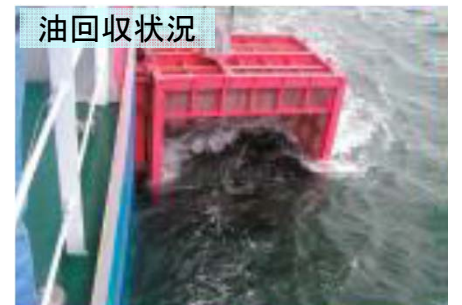
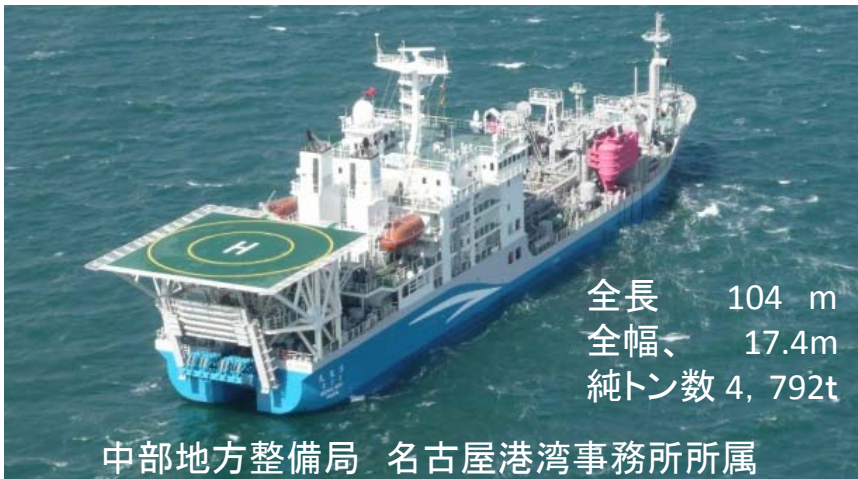
ふりがな 氏名	所属	役職	ご連絡先

※お預かりした個人情報、当シンポジウムの運営のみに使用します。

浚渫兼油回収船「清龍丸」の概要

「清龍丸」の行う業務

- 通常は、航路、泊地等の浚渫作業。
 - ・高精度で平坦浚渫を可能とする幅広い新型ドラグヘッドを装備。
- 大量油流出時には、速やかに流出現場に向かい、油回収作業。
 - ・油の状況に応じた2種類の回収器を装備。
- 災害時には、災害支援作業(災害情報収集、救援物資輸送、給水、電力供給等)。
 - ・情報収集・発信のための通信システムや防災要員・物資運搬等のためのヘリデッキを装備。



油回収タンクに約1時間で1,000kl (ドラム缶約5千本分)の油水を回収可能。

